
昔の方がよかったのはなぜだろうかと言わない。それは賢い問いではない。

知恵は遺産に劣らず良いもの。日の光を見る者の役に立つ。

知恵の陰に宿れば銀の陰に宿る、というのが知っておくがよい。

知恵はその持ち主に命を与える、と。

神のみ業を見よ。

神が曲げたものを、誰が直しえようか。

順境には楽しめ、逆境にはこう考えよ

人が未来について無知であるようにと

神はこの両者を併せ作られた、と。

(コヘレトの言葉 7・10―26)

昔のよかった経験も、辛い経験も、経験は、生きるための知恵を与えてくれる。

人は、未来について、無知だからこそ、夢を持って、努力する。懸命になって、時にワクワクしながら、涙こぼしながらも、

もし未来を予知できたら、努力しない、挑戦しない、人生を悔る。

神さまは、そのように、私たちをおつくりになった。

目を、外の世界に向けると、平和とはいえない。

残念ながら、世界の歴史を見ても、人間は自分の立場にこだわり、争いが絶えない。

私たちも、いつそれに巻き込まれないともかぎらない。

私たちが懸命に勉強しているのは、どんな理由があろうと、人を攻撃し、威圧し、排除するためではない。
楽しいときは、皆と一緒に喜んで、逆境の時、それはつらい体験を通して、経験智として学び、生きる知恵を
身につけてゆく。

そして、私たちは、人を温める仕事をしたい、と思う。

(国語科 高橋覚)